

令和 4 年度  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター  
年度計画（案）（概要）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

## 令和4年度計画のポイント

- 当センターは、東京都が設立した地方独立行政法人として、新型コロナに対し、これまで東京都や板橋区、地域医療機関とも連携しながら対応を進めてきたものの、いまだその収束は見通せない状況である。
- 新型コロナへの対応を行う中で、稼働病床数の減少による通常医療の制限や研究にかかる調査の中止など、高齢者の健康増進、健康長寿の実現という当センターの使命の達成に影響が出ている。

**病院・研究・経営の各部門が一丸となり、新型コロナに対応するとともに、ポストコロナを見据えた医療提供・研究推進体制を構築する。**

### 【令和3年度までの新型コロナ感染症への主な対応状況】

東京都との連携

- 宿泊療養施設への長期職員派遣
- 新型コロナ専用病棟の設置、陽性患者受入れ
- 大規模ワクチン接種会場への職員派遣協力

地域との連携

- 住民向けワクチン接種の実施
- 地域外来・検査センターの設置・運営
- 地域病院との連携（ECMO治療等の重症患者受入れ）

感染防止対策

- TOBIRA抗原検査の実施による必要な面会の継続（令和3年度は5,000件以上）
- 研究所と連携した遺伝子変異検査を含むPCR検査体制の強化
- 認知症患者への対応（マニュアルの実行）

### 【令和4年度の新たな取組】

#### スマートウォッチ等デジタル機器を活用した健康づくりに向けた研究プロジェクト

事業期間：令和4～6年度

#### 【目的】

- 健康に関する高齢者の意識・行動の変容や病気の早期発見・重症化予防を行い、高齢者の健康増進

#### 【令和4年度事業概要】

- スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクトを立ち上げ、自治体との連携体制構築とともに研究基盤を整備
- また、地域在住高齢者及びフレイル外来受診者を対象に各種デジタル機器の実用性を検証

#### 《令和4年度検討事項（案）》

- ① 実用性に関する検討
- ② フレイル関連指標のデータ取得可能性を検討
- ③ 高齢者関連疾患の早期発見の可能性を検討

#### 【事業イメージ】

##### 【来所時取得データ】

運動機能（握力、歩行速度等）  
認知機能、栄養状態（身長、体重等）  
医学的検査（血圧、心電図、血液検査等）、各種質問票等（既往歴、服薬数、運動習慣、飲酒・喫煙習慣等）など

<健康長寿医療センター>



比較検討  
分析  
関係性解明



##### 【自宅等での自動計測データ】

バイタル（体温、血圧、脈拍等）  
身体活動（歩数、歩行速度、消費エネルギー等）、血糖値、睡眠時間、食事量（栄養）  
社会参加活動（会話量）など



<自宅等>

結果を反映

アプリ開発等に繋げ、高齢者の行動変容・健康増進を図る



## 《概要》

- これまで培ってきた膨大な臨床・研究データに、AIなど最先端技術を活用し、**新たな認知症予防の取組を推進**
- 都から受託している認知症支援推進センター等の事業推進を通じ、**人材育成や地域づくりなど共生にも貢献**

## 《事業内容》

### ① TOKYO健康長寿データベースの構築

- ・センターの保有する各種データを統合し、**オープンに活用可能なDBを構築**

#### R4年度目標

- ・DBへの過去データ格納推進及びDBの研究・解析利用開始、外部研究機関・企業との共同研究開始

### ② メディカルゲノムセンター

- ・生体試料の保管・提供及びゲノム解析、低コスト・低侵襲な**体液バイオマーカーの開発**

#### R4年度目標

- ・統合バイオバンクの整備完了、前向き生体試料の蓄積を継続
- ・既存のバイオマーカー測定系を立ち上げ、一部の候補については測定を開始

### ③ AI診断

- ・AIを活用した**画像診断システム及び自動会話プログラムの開発**

#### R4年度目標

- ・MRI診断支援システムによる微小出血診断の実証検証の実施
- ・チャットボットのプロトタイプの実証臨床トライアル及び課題抽出

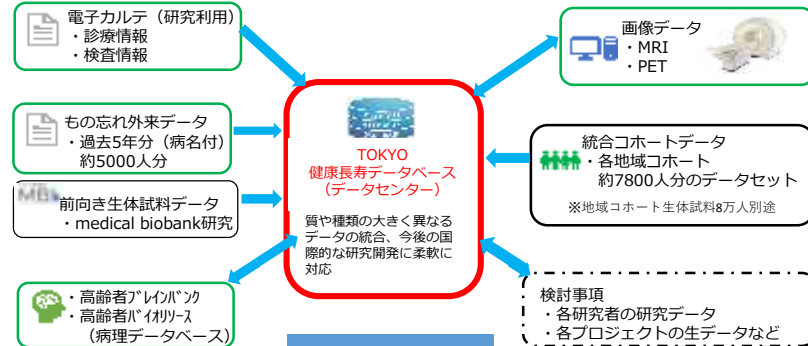
### ④ 地域コホート

- ・地域コホート研究データの統合活用及び認知症リスクチャートの作成

#### R4年度目標

- ・認知機能の変化、要介護認知症をアウトカムとした統合データの作成・分析

【健康長寿データベース】



都受託事業

### ⑤ 認知症疾患医療センター

- ・認知症疾患に関する鑑別診断・初期対応、BPSDと身体合併症の急性期治療、専門医療相談、診断後支援、地域保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域において認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる機能・体制を構築

### ⑥ 認知症支援推進センター

- ・都における認知症高齢者等を地域で支える支援体制を構築するため、認知症支援に関わる医療専門職等の認知症対応力向上のための取り組みを推進

## 《概要》

- 医療・研究部門の知識と技術を統合的に活用し、**フレイルの評価に基づいた高齢者医療とフレイルでも快適に過ごせる社会の形成に貢献**

## 《事業内容》

### ① フレイル診療ネットワーク構築とフレイル外来の機能強化

- ・フレイルをきたす全ての診療科が連携
- ・フレイル外来では連携して**フレイルの評価・対策を強化**

### ② フレイルサポート医の育成

- ・医師会と連携し、**地域におけるフレイル対策をリードする医師を育成**

#### R4年度目標

- ・東京都医師会を始め、他地域の医師会とも連携を取り、フレイルサポート医研修会を開催

### ③ 地域との連携

- ・自治体や医師会と連携し、**介護予防・フレイル予防の取組を支援**

#### R4年度目標

- ・保健事業と介護予防事業を一体化した取組が実施できるよう支援



【フレイル診療ネットワーク】

### ④ 運動の対策

- ・**運動指導の質の向上**

#### R4年度目標

- ・介護予防（主任）運動指導員にフレイル講習を追加

### ⑤ コメディカルの対策

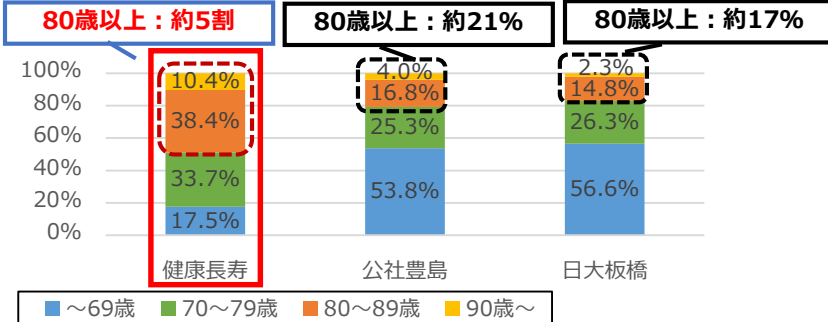
- ・フレイルに対する**看護・栄養指導の質の向上**

#### R4年度目標

- ・フレイルサポート栄養士を育成
- ・フレイルサポート看護師育成準備



【入院患者年齢構成の他病院との比較（※令和2年度DPC情報の公表数値より集計）】



○センターの入院患者の年齢構成は、80歳以上が5割、70歳以上が8割超となっている。  
 ○一方、他病院では80歳以上は2割程度、70歳以上は4～5割となっており、センターの高齢患者の割合は他病院と比較しても非常に高い水準にある。



こうした状況を踏まえ、**高齢者の特性に合わせた最適な医療の提供**を実施していく。

(※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。)

## 【三つの重点医療を始めとする高齢者医療の充実】

### ①血管病医療

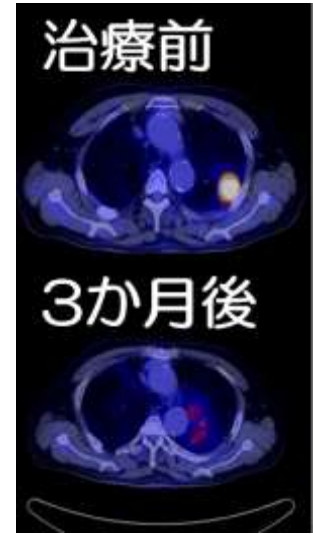
- 健康寿命の延伸等を図るため、「脳卒中・循環器病対策基本法」に則り、**東京都CCUネットワーク、急性大動脈スーパーネットワークへの参画医療機関及び脳卒中急性期医療機関Aとして、急性期の血管病患者に対する治療を積極的に実施**
- 経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）、カテーテル不整脈治療（アブレーション）、補助循環用ポンプカテーテル（IMPELLA）を実施**するなど、高度な医療体制を充実・強化



【カテーテルアブレーション】

### ②高齢者がん医療

- 食道がん、胃がん、大腸がんに対する低侵襲の内視鏡治療の提供と拡充を図るとともに、**肝胆膵領域悪性腫瘍に対する高難度手術を安全に提供**
- 新しい放射線治療システムを活用した**放射線治療や、化学療法などの手術以外のがん治療法**を充実させるとともに、集学的治療により患者の状態や希望に合わせた医療を提供
- 人生の終末期においてもQOL向上を図るため、患者とその家族の意向を把握し、**全人的苦痛に対する緩和ケア医療を提供**



【体幹部定位放射線治療】

### ③認知症医療

○認知症未来社会創造センター（IRIDE）の項を参照

### ④生活機能の維持・回復のための医療

- 認知症やフレイルのリスク因子である、**慢性心不全や心房細動の予防や管理へのスマートウォッチ等の活用**（別項参照）
- フレイル発症の誘因となる急性心不全、脳卒中、各種外科手術などにおいて、**各診療科の急性疾患治療後にフレイル発症を予防するための早期介入を実施する院内フレイル診療ネットワークを構築**
- 糖尿病患者に対するCGM（持続血糖測定）の普及を推進**するとともに、**特定行為研修修了看護師による看護外来を実施**

## 【地域医療の体制の確保】

### ①救急医療

○引き続き**新型コロナ疑い救急患者の東京ルールに参画**し、新型コロナ疑い救急患者の受け入れを実施

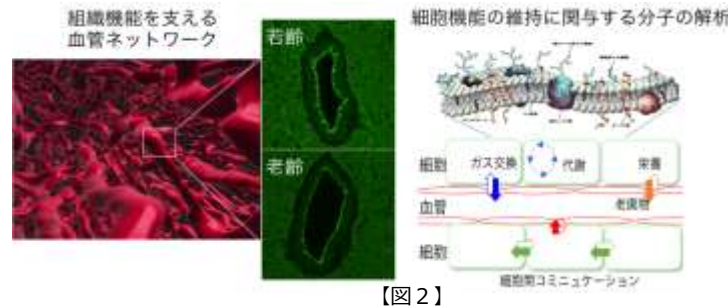
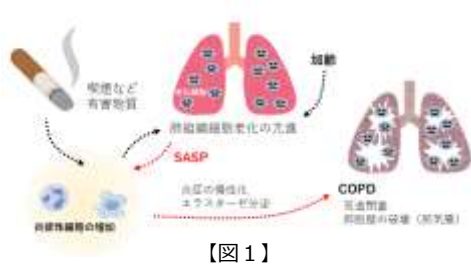
### ②地域連携の推進

○東京都脳卒中救急搬送体制に参加し、急性期患者を積極的に受け入れるとともに、未破裂脳動脈瘤をはじめとして、**オンライン受診勧奨の運用開始に向けて検討**

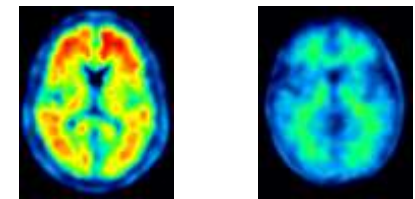


【高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究】

- 細胞老化の視点から慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態について解析を行い、**老化細胞を標的とした治療モデルを開発（図1参照）**
- 血管機能による組織機能の維持・低下に関与する分子が有する**細胞間ネットワークを解析（図2参照）**
- 認知症画像バイオマーカー（アミロイド、タウ、グリア）の臨床研究、新規画像バイオマーカー（血液脳関門、脳内環境）の創薬研究**を実施
- 認知症の唯一の確定診断ツールである病理解剖診断を基礎研究と臨床にフィードバックし、**イメージング・バイオマーカーによる認知症の早期診断の研究開発に貢献（図3参照）**
- 認知的フレイル、身体的フレイル及び認知症の病態メカニズムと歯周病菌との因果関係について解析**



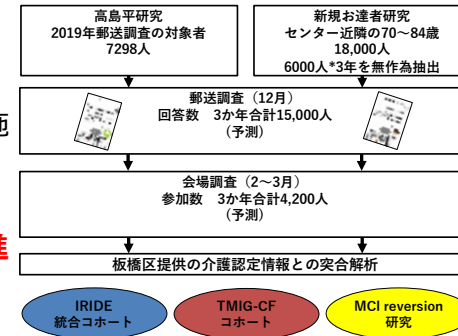
病理学的検索：Aβの蓄積



【図3】

【高齢者の地域での生活を支える研究】

- スマートウォッチ等デジタル機器を活用した健康づくり**に向けた研究プロジェクトを始動
- 独居認知症高齢者等が安心・安全に暮らせる環境づくりに向けた総合的研究を行い、**自治体向け・住民向けのガイドラインを作成**
- フレイル等の要因と要介護や認知症要介護、死亡との関連の解明及びフレイル改善を目指した介入プログラムの開発、効果検証を目的とした**「板橋健康長寿縦断研究」（新規コホート）を構築**
- 社会参加が健康に影響を与える心身社会的機序の解明及び評価手法を検討し、**社会的フレイルの概念整理**を実施  
※認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターの取組は別項参照



【「板橋健康長寿縦断研究」の計画】

【研究推進のための基盤強化と成果の還元】

- 知的財産の創出、取得、管理、活用（知的財産サイクル）の円滑な実施により、**センター全体の知財活動を推進**（特許等新規出願目標…R3：7件⇒R4：10件）
- クラウド型特許データベース**により保有特許の適切な管理と総合評価を実施

【医療と研究が一体となった取組の推進】

- 次世代の治療法や診断技術に繋がる基礎技術の発掘・育成**を行うとともに、実用化の可能性が高い研究課題を重点支援
- 東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合（TOBIRA）等を活用した**産学公連携を強化し、アフターコロナを見据えた共同研究による研究開発**を実施
- センター内の組織横断的な連携を図り、**DX、再生医療、IoT、AI、ロボット等の先端技術を活用した研究・医工連携等**についても積極的に推進



## 【高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成】

- 引き続き**高齢者看護エキスパート研修を実施**し、公開講座の外部参加も可能とするなど、センター内外の看護師のスキルアップを支援
- 特別研究員、連携大学院生、研究生を積極的に受け入れ、**老年学・老年医学を担う研究者を育成**
- 研修プログラムを充実させ、高齢者医療や老年医学に関心のある初期研修医、専攻医を受け入れ**、他の医療機関や研修関連施設とも連携することで、人材を育成
- ※認知症未来社会創造センター（IRIDE）及びフレイル予防センターの人材育成については別項参照

## 【地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化】

- 患者衣やタオルの**セットレンタルへの日用品の付帯や、おむつのセットレンタルの新規導入**により患者サービスの向上を図る
- 職員の働き方改革に向けて、**タスク・シフト/シェアを積極的に推進**
- 現行の研修に加え、**新たに階層別研修を導入**するほか、適切な人事配置を行い、病院特有の事務や経営に強い事務職員の組織的な育成を強化
- 各診療科とも連携し、**保険指導の専門家の指導により、適正な保険請求、請求漏れ防止を強化**
- オンラインを含めた就職説明会やホームページ等を活用**し、新卒採用や即戦力となる経験者の採用を含めて固有職員を計画的に採用



## 【財務内容の改善】

- 研究所と連携したPCR検査、全自動遺伝子解析装置や抗原検査などにより、迅速なスクリーニング（1時間以内に結果が出る）が実施できることを活かし、救急等の**入院患者を積極的に受け入れ、収入を確保**
- 引き続き、競争的資金への応募や共同研究・受託研究を推進し、**外部研究資金を積極的に獲得**
- ベンチマークシステムの一層の活用**や、**センター内各部署から提案のあったコスト削減方策に積極的に取り組む**ことにより、経費の不断の見直しを実施
- 各診療科の特色の向上を図り、入院・外来の活性化**により収支を改善



【全自動遺伝子解析装置】